

News Release



西日本シティ銀行



2025 年 1 月 24 日

「第 133 回九州の経営動向調査（2024 年 10～12 月期）」結果のお知らせ

西日本シティ銀行（頭取 村上 英之）は、四半期毎に当行のお取引先さまのご協力を得て、経営動向調査を実施しています。このたび、第 133 回（2024 年 10～12 月期）の調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

記

1. 調査対象企業

- ・当行の主要取引先 534 社（回答企業数 271 社、回答率 50.7%）
- ・回答企業：福岡県内企業 84.1%、中小企業 77.9%

2. 調査対象期間

2024 年 10～12 月期（※前回調査：2024 年 7～9 月期）

3. 項目別 BSI※の概要（製造業、非製造業、全産業）

	景況感			売上高			収益			資金繰り			商品在庫		
	前回	今回	前回比	前回	今回	前回比	前回	今回	前回比	前回	今回	前回比	前回	今回	前回比
製 造 業	▲ 9.3	2.7	+12.0	▲ 6.7	4.1	+10.8	▲ 18.7	▲ 5.5	+13.2	4.0	▲ 8.2	▲ 12.2	4.0	▲ 6.9	▲ 10.9
非 製 造 業	5.5	6.5	+1.0	7.9	6.6	▲ 1.3	1.5	4.0	+2.5	▲ 0.5	3.0	+3.5	▲ 0.5	0.5	+1.0
全 産 業	1.4	5.5	+4.1	4.0	5.9	+1.9	▲ 4.0	1.5	+5.5	0.8	0.0	▲ 0.8	0.8	▲ 1.5	▲ 2.3

※BSI とは、「好転・増加・不足」（前年同期比）の企業割合から「悪化・減少・過大」の企業割合を差し引いた指標

- ・景況感は、製造業は前回比 12.0 ポイント改善、非製造業は前回比 1.0 ポイント改善し、全産業では前回実績 1.4 から 5.5 となり、2 四半期連続改善した。
- ・売上高は、不動産、運輸通信の大幅悪化を受けて非製造業では悪化した。資金繰りは原材料や人件費の高騰を受けて製造業では悪化した。

4. 業種別動向

- ・製造業は、原材料価格高騰に対する価格転嫁を進めた声もあるが、十分ではない。人手不足を反映して、DX化やロボットによる自動化、工場新設等の動きがみられる。一方、海外からの廉価品が市場に流れ、価格競争にさらされているとの声もあった。
- ・非製造業は、景況感は改善したが、売上高は不動産、運輸通信が悪化したことで、全体では小幅悪化した。卸小売、サービス業等で価格高騰に対する生活防衛意識の高まりの影響がみられる。運輸業では二極化がみられ、医療業界も経営が厳しくなっているところがみられる。

5. 経営上の問題点

- ・「従業員対策」が 60%で 2 期連続 1 位となった。家具製造、サービス業、建設業、金属機械器具製造、食料品製造への影響が大きい。

以 上

詳しくはこちらからご覧いただけます。→ [第 133 回九州の経営動向調査](#)

本件に関するお問い合わせ先
融資統括部 右近 TEL 092-476-2781

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。